

【概要】

2021年3月2日に物揚場排水路に設置している簡易放射線検知器（以下「PSFモニタ」）に高警報が発生した原因について、継続的に調査しておりますが、当該排水路上流にある「一時保管エリアW2」付近の排水溝に流れる雨水（3月21日採取分）を分析した結果、セシウム134が検出限界値未満（検出限界値3.5～3.6Bq/L）、セシウム137が6.1～9.4Bq/L、全ベータが $1.6 \times 10^3 \sim 1.7 \times 10^3$ Bq/Lであり、全ベータの値が高いことを3月22日に確認しました。

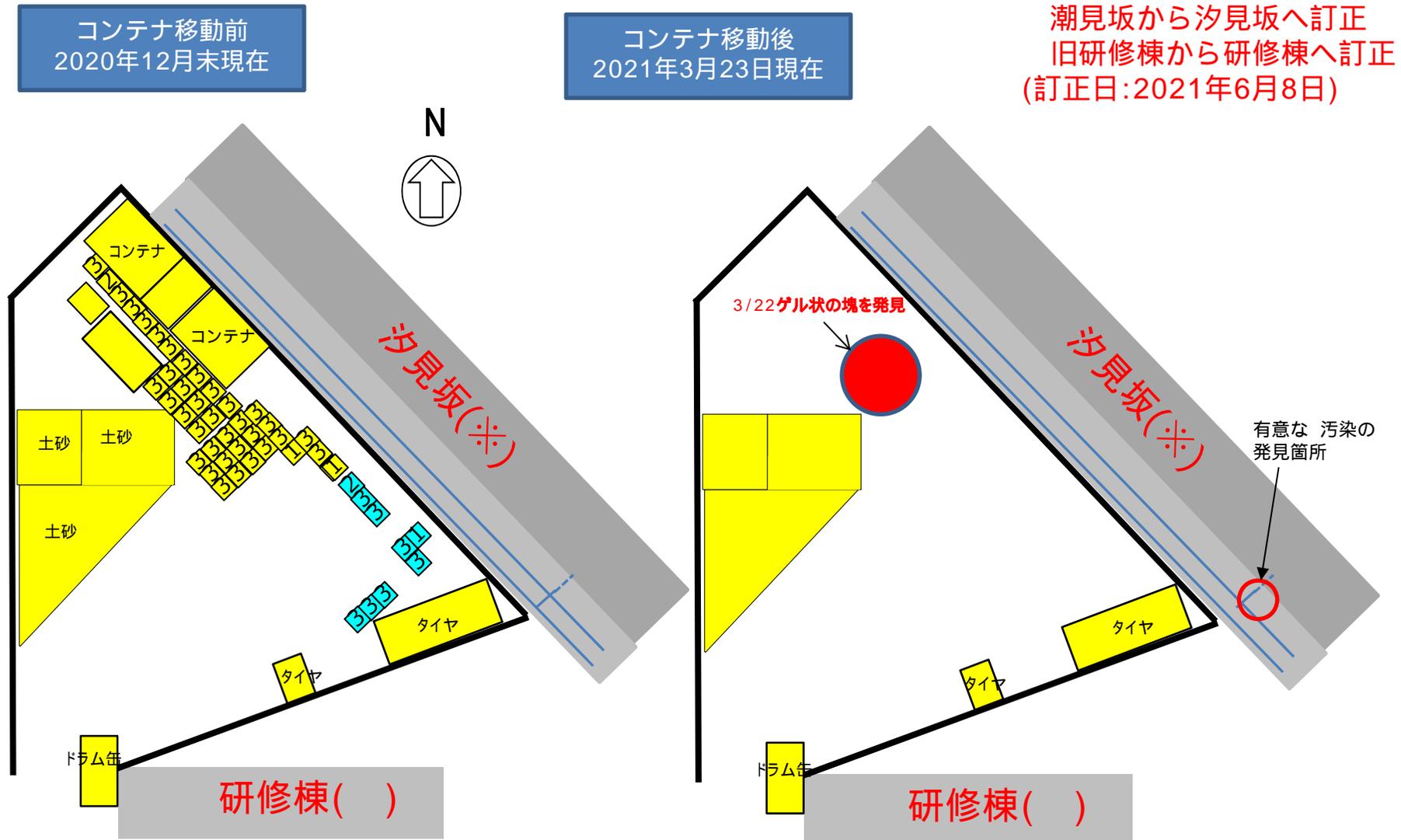
当該排水溝雨水の全ベータ値が高い原因を調査する観点から、一時保管エリアW2の地表面（土やコンクリート等）の線量率を調査したところ、ベータ線の値が高い地点（最大5mSv/h）があることを3月22日に確認しました。

また、3月22日、一時保管エリアW2の地表面上において、ベータ線の値が高いゲル状の塊が確認されたことから、回収作業等の準備を行い、本日（3月24日）当該塊を回収した上で、現在、周辺の地表面上へ除染材（塗膜剥離型除染材）の塗布、シート養生、および土のう設置を実施しております。追加対策として、今後、準備が出来次第、当該地点周辺の地表面のはぎ取りを行います。

今後、ゲル状の塊の分析を実施する等、引き続き、当該排水路のPSFモニタ高警報が発生した原因調査を継続するとともに当該排水路における放射能濃度の監視を継続してまいります。

【参考】一時保管エリアイメージ図

- 一時保管エリアW2の廃棄物保管状況は下記の通り。
- 2021年1月25日より，エリアW2から固体廃棄物貯蔵庫2棟へ廃棄物を移動開始。



【参考】ゲル状の塊



図．ゲル状の塊



図．ゲル状の塊（拡大）